

# 清武町立加納中学校の学力向上への取組

## 1 学校の概要

清武町は、面積 47.81 平方キロメートル、人口 28,601 人。宮崎県の中南部に位置し、北東南の三方を県の中心都市宮崎市に囲まれ、西は田野町に隣接している。黒潮が流れる太平洋まで 4 km、町内の小高い丘からは青い海を望むこともできる。

本校の学区は国道 269 号の入口に当たる加納地区と清武川の北部の船引地区とからなり、学校は新興住宅地のほぼ中央に位置する。

また、国道 269 号の両側にひらけた商業地区と加納台、池田台、ニュー池田台、クリーン池田台、ニュータウン飛鳥等の住宅地をもち、今後も発展・人口増加が予測される地域である。

地域内には、清武町を代表する儒学者安井息軒生誕の地や伊東家の墓などの歴史的史跡、船引神社の樹齢 400 年を越す楠の巨木、神楽、県内で初めて送電を開始した黒北発電所等、国や県から指定を受けた史跡等が数多く残っている。

本校は、加納地区の住宅・住民の増加に伴い生徒数も増え、清武中学校の生徒数が千名を超過マンモス校になったため、清武中学校をほぼ二分する形で分離・新設され、平成 11 年 4 月 1 日に生徒数 556 名 16 学級で開校した。

保護者は、公務員や会社員が多く、多種多様な考え方があるが、教育には大変熱心である。

本校では、学校の教育目標に「自ら学び豊かな心とたくましく生きる力をもつ生徒の育成」を掲げ、学力向上を重視した教育の実践に努めている。

## 2 生徒の実態

本校の生徒は、加納小学校からの生徒と転居に伴う転入生で構成されており、これらのほとんどが新興住宅地内の生徒である。

生活面の基本的な生活習慣については、家庭での躾もある程度できており、明るく素直な生徒が多い。また、優しく、思いやりのある生徒も多い。学校の雰囲気も比較的落ち着いている。

行動面では、目的がはっきりしていることや自分が必要と感じていること、興味のあることについては、非常に前向きに取り組み、努力する。そのため行事や学習における成果は上がってきている。しかし、服装・容儀や時間のけじめ等では、指導を継続しなければルーズになりがちな傾向があり、継続的・計画的指導が必要である。

学習面では、授業態度はよく、忘れ物も少ない。基礎学力についても身に付いている生徒が多い。全体的に学力は高いが、学力差が大きく、十分に力が発揮できていない生徒への適切な指導が必要である。そこで、授業での少人数指導や指導方法の工夫、放課後の補充学習等により十分に力が発揮できていない生徒の学力向上に対処している。

## 3 学力向上に向けた経営方針

### (1) 基本方針

開校以来築き上げてきた向上・向学の精神のもと、自信をもち主体的に生きる力を育てる学習指導の展開に努める。先人に学び地域に根ざした学習に意欲的に取り組み基礎学力を高め、一人一人の能力・適性に応じて可能性を最高に開発する教育を実践する。

- ① 特色ある教育課程の実施と改善をする中で、一人一人を大切にする学習指導の改善に取り組んでいく。

- ② 基本的学習習慣や態度を指導する中で、少人数指導やわかる授業等の指導方法の改善と基礎・基本を身に付ける教科指導の改善を行う。
- ③ 主題研究との関連を図り、生徒相互が学び合い伸ばし合う学級集団の育成に取り組む。

#### 4 教育課程内の取組

##### (1) 基礎学力の向上を図る授業の実践

###### ① 学力調査結果の課題に基づく指導の工夫

夏季休業中に行った学力調査結果の分析を生かして、各教科で重点目標を定めた授業実践を行い、学力調査結果からわかった課題の解消を目指す。各教科において課題に対応する指導方法を工夫するとともに、小テストによる定着や、夏休み課題テストや中間テスト後に定着確認を行うなど、基礎学力の定着を図る。

###### ア 各教科の提案課題例

国語…書く力や読む力の育成。文章記述で解答したり、説明したりする能力の向上  
 社会…資料やグラフから適切な情報を読みとる能力の向上  
 数学…数学的な表現や処理能力の向上、数量の関係を式で表現する力の育成  
 理科…観察や実験の時間の技能の向上  
 英語…表現力の向上

###### イ 夏休み課題テストの結果

2年国語の課題テスト平均点は65.7点であったが、再テストの平均は91.4点になった。同じ問題か同系統の問題なので点数が上がるのは当然であるが、この後、論文書き指導やワークブックの問題解答の時間に、一人一人に対して個別指導を行い、弱点の克服を図った。

###### ② アンケート実施による生徒の実態把握

本学期（2学期）の10月下旬と学期終了時に学習への意欲や態度についてアンケートを実施し、生徒の変容の把握を行う。アンケートの内容は、教科への興味関心、授業の学習内容の理解度、宅習内容や宅習時間の変化などに関することとする。その結果を分析し、2学期の生徒の取組や教師の授業の反省の在り方の反省をし、3学期の授業に生かすようにする。

[アンケートの内容（10月実施分）]

1	あなたはこの教科が好きですか。	ア	好き	イ	嫌い
2	あなたの授業に参加する意欲は、1学期には強かった（高かった）と思いますか。	ア	はい	イ	いいえ
3	1学期の授業ではあなたは内容が分かっていたか。	ア	わかっていた	イ	わからなかった

[アンケートの実施（12月末実施予定）]

1	あなたはこの教科が好きですか。	ア	好き	イ	嫌い		
2	今学期になって変化はありますか。	ア	好きになった	イ	かわらない	ウ	嫌いになった
3	今学期、授業へ参加しようとするあなたの意欲は高くなったと思いますか。	ア	高くなった	イ	変わらない	ウ	低くなった
4	今学期この教科で、内容がわかるようになりましたか。	ア	はい	イ	いいえ		

- 5 今学期あなたの学習時間は増えましたか。  
 ア 増えた    イ かわらない    ウ 減った
- 6 今学期この教科に限らず、あなたの宅習時間は増えましたか。  
 ア 増えた    イ かわらない    ウ 減った

上記の二つのアンケート結果を比較して、2学期の取組がどのようなものであったかを検証し、指導の見直しに生かすようにする。

### ③ 学業指導週間の設定

宮崎県の実施した「小・中学校学力調査」結果の意識調査分析から判明した本校の課題を生徒に提示し、その中から、生徒自らが現在の問題点としてとらえている課題を洗い出して、学力向上の基となる学習態度の向上を図ることにした。各学年ごとに学習の取組の目標を設定し、2週間の学業指導週間の中でその改善を目指すようにする。

指導週間の指導を定期的実施し、学業や学校生活の環境がよりよくなるように生徒会の自主的な活動を活性化させながら学力向上の指導に取り組んでいく。

[具体的な方法]

ア 「小中学校学力調査」の意識調査結果による課題項目の分析。

イ 課題項目をもとに、学習部によるアンケート調査内容の絞り込み。

ウ 各学年のプログラム委員会（学級委員長の会）による具体策の決定。

各学年の重点目標と具体策

学 年	重 点 目 標	具 体 策
1 年	○ 1 分間前着席を守ろう。	学習部の呼びかけ。
2 年	○ 授業に集中して積極的に発表しよう。 ○ 忘れ物をしないようにしよう。	評価カードの活用。 生活の記録の「授業準備物」記入。
3 年	○ 授業中の姿勢を正そう。 ○ 1 分間前着席を守ろう。	保体部、学習部、教務部を中心とした呼びかけ。

### ④ 校内主題研究と関連した教職員の共通実践

学校の研究主題である「学びあい、認めあい、共に伸びようとする生徒の育成」を目指す上で、学習内容への関心を高める発問や教材の工夫を行い、生徒がわかる授業、主体的に活動する授業などの指導の改善に努める。また、お互いが学習者として学び合い、伸ばし合うために、意見をよく聞き、考え方を認め、自分の意見を発表し合うなど、生徒が分かり合い、学習内容の深化を図る授業を実践する。



話し合って確認しあう生徒



意見を出し合う授業

## 5 教育課程外の取組

- (1) 昼休みや放課後などに個別指導を行い、基礎学力の定着を図る。
- (2) 週末課題という名称で、教科担当教師が課題プリントを準備し、金曜日に家庭学習の課題として生徒に持たせ、翌週に解答するなどの学習習慣育成の工夫を行う。

## 6 保護者・家庭、地域との連携

### (1) 保護者・家庭との連携

「教科の勉強法」という各教科の宅習のやり方を示したプリントを作成し、各家庭に配付する。また、定期テスト時に学級通信を使って、宅習方法を保護者にも連絡し、家庭での指導に役立ててもらおうようにする。

## 7 成果と課題（次年度の取組を含む）

### (1) 成果

#### ① 生徒の変容

- ・ 「学力調査結果」の分析から実態を知ることによって、学習への意識づけや課題の理解をすることができた。
- ・ 学力の実態をもとに、アンケートや努力事項を設定することで、課題を明確にした対策を考えるなどの活動ができた。
- ・ 課題テスト、再テストなどの実施により、学習内容を定着することの大切さを意識できるようになった。
- ・ 学び合う学習風土や伸び合う学習の在り方が学力向上に大切であることを意識するようになった。

#### ② 教師の変容

- ・ 「学力調査結果」の分析から指導重点事項や課題を明確にすることができた。
- ・ 指導内容の定着を図る指導方法の工夫や学習集団の在り方、教師の共通実践の大切さを意識するようになった。
- ・ 指導方法の改善に努め、よりよい授業を目指す工夫・改善について、全職員で取り組めるようになった。

#### ③ 取組の波及効果

- ・ 家庭との連携や小学校との共通研修など、学力向上への取組の理解と実践を広げることができた。

### (2) 課題

- ① 学習は、自宅学習まで充実してこそ効果があるものである。学習習慣育成の指導を一層進め、自主的な学習態度の確立に努める。
- ② 一人一人を大切に、相互が伸びあう学習環境の一層の整備・充実に努める。